

1 環境に配慮した細網線維染色の検討

2  
3 田島秀昭 荒川文子 齋藤広樹 永井信浩  
4 當銘良也 石田 剛  
5 独立行政法人 国立国際医療研究センター 国府台病  
6 院 中央検査部  
7

8 【はじめに】渡辺法で使用される一部の劇物試薬を  
9 使用しない環境に配慮した細網線維染色法を開発し  
10 たので報告する。

11 【材料と方法】20%ホルマリン固定パラフィン包埋  
12 された肝および脾を用い6 $\mu$ m切片を作製した。渡  
13 辺法で使用されている試薬のうち、以下の試薬を変  
14 更し、その他は渡辺法に準じて染色し、渡辺法とそ  
15 の染色性を比較検討した。

16 酸化剤：10%過ヨウ素酸水溶液を使用した。

17 アンモニア銀液：10%硝酸銀水溶液 5ml に 25%アン  
18 モニア水を滴下し、ちょうど透明になったところで  
19 止め、蒸留水で全量を 50ml とした。さらに 1%ゼラ  
20 チンを 0.5ml 加え銀液とした。

21 還元剤：グルコース水溶液に 1%水酸化ナトリウム  
22 を加えた溶液を還元液とした。

23 【結果】細網線維は黒色、膠原線維は赤褐色、細胞  
24 質と核は薄い赤褐色に染色された。渡辺法でしばし  
25 ば認められる非特異的銀粒子の吸着はほとんど認め  
26 なかった。本法は渡辺法と比較し細網線維は濃く、  
27 膠原線維は赤色調に染色される傾向にあり、良好な  
28 コントラストが得られた。酸化時間は1~5分まで、  
29 還元時間は3~5分まで良好な染色性が保たれてい  
30 た。

31 【考察】これまでに酸化剤として過ヨウ素酸を使用  
32 する報告はあるが、グルコース水溶液を還元剤に使用  
33 した報告はなく、本法が初めてである。

34 【まとめ】環境に配慮した細網線維染色法を開発し  
35 た。渡辺法と同等の染色性が得られ、かつ作業環境  
36 の改善につながると考えられた。

37  
38 連絡先 047-372-3501 内線 3314